

TCDN 教会防災セミナー 配布用レジュメ

「明日、慌てないために～災害に備える教会～」

2026年1月23日 講師：大間 哲（気象予報士／防災士）

第1章：教会が防災・減災を考えることの重要性

- ・防災は信仰の実践であり、隣人愛の具体的な形。
- ・もし、明日、被災したら？礼拝中／平日非集会時など、時間帯別に考える。
- ・教会は人が集まり、弱者も多く、地域と関わる公共的な場所。

第2章：東海地区のリスクと災害タイプ別の備え

- ・東海地区は地震と水害の両方に備える必要がある。
- ・南海トラフ・線状降水帯・内水氾濫を想定した複合災害対応。
- ・Web ハザードマップの活用、危険箇所と避難経路、教会メンバー住所を重ねてみる。

第3章：教会の備え－建物・人・時間帯別初動対応

- ・教会のリスクと備えの把握→地形/周囲の状況（ハザードマップ）／誰がいるか／チェックリスト
- ・建物・設備点検：非構造部材・照明・ピアノ・ガラスの安全確認。
- ・備蓄と情報：水3日分・トイレ・電源・情報手段（Web 掲示板・連絡網）。
- ・組織体制：防災チーム設置、年1回の防災点検を定例化。
- ・時間帯別初動：礼拝中／非集会時の対応マニュアル化。

第4章：災害時の教会－規模別対応と地域連携

- ・教会の役割は規模・設備によって異なる。無理をせず「できる範囲」を決める。
- ・教会規模別対応：A 大規模＝避難拠点、B 中小＝情報共有、C 家庭集会＝近隣支援。
- ・地域連携：自治会・学校・福祉施設との関係構築（話す相手を知るだけでも）を平時から。
- ・教団・教区ネットワークで物資や情報を共有。

第5章：未来の備え－継続と人材育成

- ・防災リーダーを任命と、年次で引継ぐ体制を作る。
- ・ワークリーダーの育成、若手主体で防災ワークの運営訓練。
- ・防災礼拝や年度初点検を定例化、継続を仕組みにする。
- ・3年計画：1年目点検、2年目訓練、3年目連携と人材育成。
- ・防災は恐れではなく、信頼と希望を築く行動。

【ワークショップ】メモ